

### 目指す教師像

- 児童の「~しようとする」をサポートし、よりよく生きる力を育てる教職員
- 子供の心に寄り添い、大切に（言葉・態度）教職員

### 学校教育目標

自分を大切に まわりを大切にできる  
わくわくほかほかがあふれる東野小にしよう

### 目指す子供像

- 自分で考えよりよく行動する子
- 自分が好きな子、貢献・自己実現する子
- 思いやりのある子

### ★昨年度の研究成果★

- ・積極的に自分の考えや感想を言うことができるようになった。 ・学校生活が楽しいと感じる児童が増えた。
- ・話している人に対して、目と耳と心を向けて話を聞くことを意識するようになった。 ・反応ができるようになった。
- ・周りの人から大切にされていると感じる児童が増えた。 ・学校生活の中で自分のやりたいことを見つけることができるようになった。

### 課題

- ・感想を言うだけで終わってしまい、相手の話を聞いて考えを深めることができない。
- ・わからないことがあってもそのままにしている。
- ・他の学校との交流の場で、自分の意見が言えない。
- ・自己肯定感が低く、自分の考えに自信が持てない



### 実態

- ・友だちの説明がよくわからないことがあると答えた児童（50%）
- ・先生や友だちが説明したり、考えを発表したりしているとき、何を言っているのかわからなくてもそのままにしている児童（58.9%）
- ・たくさん人がいる場面で自分の考えや意見が言えない児童（29.4%）

### 研究テーマ

わくわくして自己を表現できる子供の育成  
~Do talk を中心とした学習集団・授業づくりを通して~

### 研究仮説

1. 「対話城図」を活用し、児童が主体的につなぎ言葉を使って対話ができるようになれば、児童同士のやり取りが増え、対話がはずみ、考えが深まる。
2. 自分の考えをわかりやすく伝えたり、わかるまで聞き返したりする対話力が身につけば、確かな学力が身につく。

### 手立て

#### ①対話城図

流行語大賞を決めたり、新しくノミネートされた言葉を考えた人を表彰したりするなどして、意欲的につなぎ言葉を使わせる。Do talk 朝会で、考えたつなぎことばを実際に活用しながら、つなぎことばを増やしていく。

また、「受けとめる」「見つめ直す」「これだ!」の3つのレベルに到達することができたのか、振り返りの一つの指標とする。

#### ②ほかほかの木

親切にされてうれしかったことや、友達の良かった行動について、できるだけ詳しく書き、自己肯定感を高めたり、他者理解を深めたりする。できるだけ詳しく書くことで書く力（表現力）も身に付けさせる。また、わからないことを言い合える環境、集団をつくるために、お互いを大切にしようとし、相手を思いやる力をつける。

#### ③異年齢交流

全校遊びや全校道徳、保護者や地域の方が参加する道徳を実施する。また、らんらんタイム（縦割り班遊び）を実施する。異年齢の人と対話し、様々な価値観に触れる環境を作るとともに、だれとでも、どんな人にも対話ができる表現力を身に付けさせることを図る。

### 検証の指標

1. 対話の中で「つなぎことば」を意識して使っている児童の割合。
2. 「自分の考えをわかりやすく伝えようとしている」「わかるまで聞き返している」と答えた児童の割合。

### 達成目標

1. 「対話の中で、つなぎ言葉を意識して使っている」と答える児童の割合を80%以上にする。
2. 「授業の中で、自分の考えをわかりやすく伝えようとしている」「わからなかったときは、わかるまで聞き返している」と答える児童を80%以上にする。